

# 東建パブリニュース

2020年9月16日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

**掲載** 2020年9月15日 日刊工業新聞 P. 6

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

主力工場



東建コーポレーションは子会社のナスラック（名古屋市中区、左右田善猛社長、052・232・8030）を通じ、建築資材や住宅機器などを生産するメーカー機能を持つ。ナスラックのNK深谷工場（埼玉県深谷市）は同社の東日本を代表する生産拠点。東建グループの高耐震鉄骨造アパート「シェルルシリーズ」向け鉄骨部材を生産する。

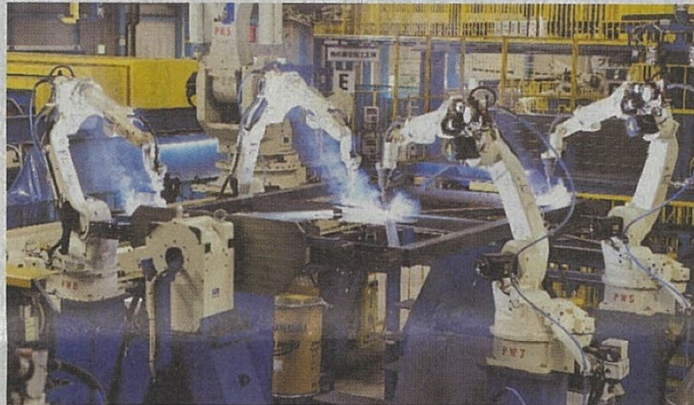
NK深谷工場は「全自動化された次世代型工場」（石川裕巳副工場長）だ。梁（はり）や柱、壁など鉄骨部分の組み立てを自動で行う。コンピューター統合生産（CIM）に基づき、ハンドリングロボット17台と溶接ロボット19台を一元管理する。

同工場のCIMは、長年培ったノウハウを組み入れて2015年刷新した。受注情報を入力するだけで、加工・組み立てに続く塗装工程とも連動する。生産状況に応じて自動で組み立てる。検査工程で

ナスラック／NK深谷工場

## 賃貸住宅部材を自動生産

ロボットを使ってアパート向けの制震フレームなどを生産する



は人手が介在するものの、それ以外の工程は全てロボットに委ねられている。

賃貸住宅の部材を製造する工場は珍しい。実際、住宅向けの工場は一戸建てがほとんどだ。一方で賃貸住宅向け工場は「生産設備が巨大化する傾向がある」（石川副工場長）。NK深谷工場では鉄骨を組み立てるため、建築業界初となる大型設備を導入。特に目を引くのが700kgまで搬送可能な「重可搬ロボット」。自動車のフレーム搬送に使われるロボットで、同工場

の塗装工程への運搬で活躍する。

18年には「制震フレーム」の自動化ラインが稼働した。視覚カメラ3台を活用し、2次元コード「QRコード」で品種を読み取り判別する。

ただ、工場の完全自動化はまだ遠い。「将来はメンテナンスも自動化したい」（同）としている。今後はCIMに新機能を追加することも検討中だ。

（名古屋・浜田ひかる）

### 【工場データ】

NK深谷工場は高耐震鉄骨造アパート「シェルルシリーズ」に使用される鉄骨や鋼管杭などを製造する。ナスラックの東日本における中核生産拠点。敷地面積は3万3060平方メートル。15年に第1工場を建て替えた。

以上